

中学校 A 体育授業における ICT 機器の活用

長谷川 ひとみ (千葉) 谷口 拓馬 (船橋) 小林 拓郎 (市川・浦安)
平田 義人 (松戸) 渡辺 はるか (習志野) 関 浩平 (八千代)

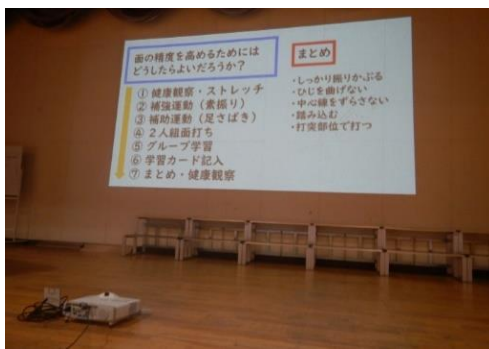
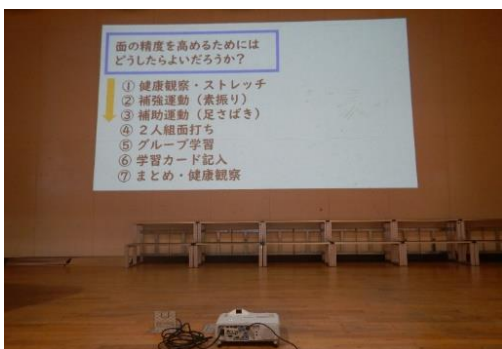
1 はじめに

令和元年12月13日、児童生徒に1人1台のPC端末と通信ネットワークの整備を行うことが閣議決定された。その後、新型コロナウイルス感染症の拡大で計画を前倒しにしたことから、令和3年度末の段階で千葉県内の小中学校では端末の導入が完了した。

筆記用具と同じ感覚でPC端末を使いこなすことが「令和の学びのスタンダード」であり、各学校においてはGIGAスクール構想の実現に向けて歩みだしたところであろう。そのような中、今回はGIGAスクール構想が始まってから間もないことを考慮して『活用場面』と『活用方法』について研究を進めることとした。

2 実践例

(1) 授業内容の提示



(2) ①動画を撮影する



②実技教科書の図と比較



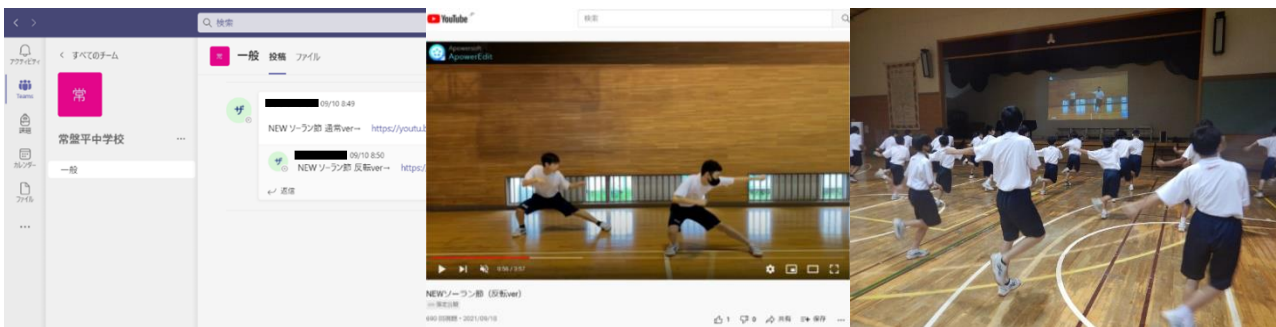
模範演技 (動画) と比較



(3) 遅延再生装置



(4) Microsoft Teams と YouTube を利用した動画配信



3 ICTを活用してみた

(1) 上記の活用が効果的、実践が可能な単元（種目）

- ・体づくり運動
- ・陸上競技
- ・器械運動
- ・球技（主にクローズドスキルの場面）
- ・武道
- ・ダンス

(2) 成果（○）と課題（●）

- 生徒の意欲が向上した。
- 実際に自分の演技を見て確認することができる。
- 映像を使用して指導することにより課題が理解しやすくなった。
- 習熟度別で活動しやすくなった。全校一斉指導が可能になった。
- 動画検索や視聴時間が増えたことにより、活動時間や運動量が減少した。
- 電波（Wi-Fi）が入らないと使用できない。充電がないと使用できない。
- ソフトやアプリを充実してほしい。
- グラウンドでの使用は難しい部分もある。

4 まとめ

手探りの中スタートしたGIGAスクール構想は、「ICTを使用しての授業」、「1人1台のタブレットを使用しての取り組み」というところから始まった。ようやくタブレットを使い始めたという学校から、毎単元タブレットを使用している学校まで、千葉県内でも差があることがわかった。前例のない中での取り組みではあるものの、生徒が意欲的にタブレットを使用し、映像から課題が明確化するという成果が得られた。その反面、映像を使用することが効果的だということが分かっているが、運動量の確保をどのようにすればよいのか頭を悩ませるところである。そこで今回は第一段階として、『活用場面』と『活用方法』について研究を進めたが、今後第二段階では、生徒にとって『効果的な活用方法』や『活用によって高まる力』を検証していく必要があるだろう。